precog

報道関係各位

2023年3月23日
株式会社precog

Press Release

THEATRE for ALL Festival「TRANSLATION for ALL トランスレーション フォー オール」
“身体表現の翻訳”をかんがえる
作家が新たなアクセシビリティを模索する実験的フェスティバルを5月～開催決定！

《　第一弾アーティスト発表　》 ＊4月中旬、第二弾アーティストを発表予定。

【公演】contact Gonzo（パフォーマンス集団） × やんツー（美術家）

【参加型演奏会】蓮沼執太（音楽家） × 梅原徹（音楽家・美術家） × 宮坂遼太郎（パーカッション奏者）

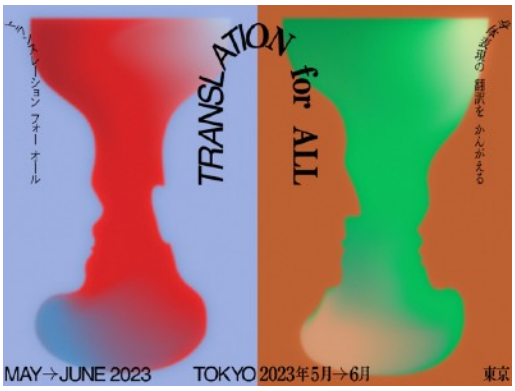
【アプリ配信&イベント】AR三兄弟（開発ユニット）・小林幸子（歌手）・鎮座DOPENESS（ラッパー）、ヨネダ2000（お笑い芸人） ほか

【配信】オル太（アーティスト集団）、Dance Base Yokohama（ダンスハウス）

バリアフリーなオンライン劇場、**THEATRE for ALL**（運営：株式会社precog）は、**2023年5月～6月にかけて、作家が身体表現の翻訳を考え、作品へのアクセシビリティを「ALL＝あらゆる人」に向けてひらく実験的フェスティバル、「TRANSLATION for ALL トランスレーション フォー オール」を東京・オンラインにて、開催**いたします。
https://theatreforall.net/translation-for-all/

2021年2月より開始したTHEATRE for ALLは、障害や疾患、育児や介護中で劇場に行きにくい方、日本語が母語ではない方に対して開かれた劇場を目指してきました。SDGsの機運醸成や多様性社会に対する意識も高まる中、2022年5月、共生社会の実現に向けて障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法案が施行されました。これは、障害者による情報の取得利用・意思疎通に係る施策を総合的に推進することで、全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重し合いながらを目指す法律です。しかし、現在、日本での映画のバリアフリー対応例は全体の16.3%にとどまり、90%以上の映画に音声ガイドやバリアフリー字幕が付いているアメリカと比較しても、情報保障が行き届いているとは言い難く、他国に大きく遅れをとっています。（*2022年NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター調査より）

THEATRE for ALLでは、これまで２年間、**「バリアフリー字幕」「音声ガイド」に対応した動画を約150種制作・配信**してきましたが、**演劇等の制作会社の知見を生かした独自の取り組みとして、標準的なバリアフリーだけでなく、作品コンセプトやその実験性に基づいて創作する「作家オリジナルのバリアフリー」の模索**も続けてきました。本フェスティバルでは、そのような取り組みを集めてご紹介します。新作３作品とそれらの創作過程を追ったオリジナルドキュメンタリー映像作品（河合宏樹監督）の発表を含め、アーティストや当事者の方々と共に新たに追求する様々なアプローチにご注目下さい。



左：メインビジュアル（デザイン：田中せり）
右：オル太「超衆芸術スタンドプレー」の英語字幕

▼TRANSLATION for ALL トランスレーションフォーオール とは？

視覚・聴覚の障害、言語の違い、移動に対しての障壁など、作品を届けるにあたって横たわる様々なバリアをアーティストや作品が各々の手法で乗り越え、アクセシビリティをALL＝あらゆる人に向けてひらく挑戦を行うフェスティバルです。

▼注目ポイント

・contact Gonzo × やんツーの公演では、人工知能が目の前のパフォーマンスを言語化し、AIによる視覚情報解説音声という新たな試みに挑戦します。

・蓮沼執太 × 梅原徹 × 宮坂遼太郎による参加型演奏会では、肢体不自由の方、聞こえづらい方、楽器の演奏ができずとも、誰でも参加できる演奏会とはなにか？という問いに向き合い、演奏会の時間の組み立てや参加/演奏方法を構築します。

・AR三兄弟は、いつでもどこでも再生できるARという形式を活かしながら、本邦初公開の新曲（歌：小林幸子・鎮座DOPENESS　作詞：川田十夢　作曲：蓮沼執太　）を立体的にデジタル空間から発表します。

▼LAB を通して創作のプロセスを可視化

創作の段階から、アクセシビリティとコミュニケーションについてアーティストや障害当事者等と向き合いながら試作・クリエーションを重ね、そのトライ＆エラーの様子をワークショップや記事、動画などで公開します。

【公演】「jactynogg zontaanaco ジャkuティー乃愚・存taアkoコ」 contact Gonzo × やんツー
アクセシビリティ：AIによる視覚情報解説音声※、日本語字幕　★新作

身体と人工知能、知をめぐる共進化の歴史的な一幕

※一般的な音声ガイドとは異なります。

即興をベースとした身体を表現するパフォーマンス集団、contact Gonzoとデジタルメディアを基盤に表現の主体性を問う作品を展開するやんツーによる「翻訳の可能性と不可能性」をテーマにした新作パフォーマンス。やんツーが制作した自走する機械を通して、contact Gonzoの即興パフォーマンスが画像として認識（誤認）、 言語化、発話される。contact Gonzoによる身体運動は、昨今の画像を学習する人工知能のモデルを用いれば、自然言語として出力されていく。しかし、身体にまつわる知的な認識方法は、言語と視覚だけには留まらない。新たに加わった人工知能を組み込むことで、2019年に制作した『untitled session』での創作をアップデートし、未発現の知の形態を炙り出す。

日時：5 月 19 日(金)19:00、5 月 20 日(土)15:00、5 月 21 日(日)15:00

会場：ANOMALY（東京都品川区東品川 1-33-10）※チケット情報は4月中旬に公開予定。

【LAB】ワークインプログレスの様子を公開

公演に向けたクリエーションを行い、最終日に公演に向けた途中経過を公開します。

日時：3月25日(土) 15:00〜17:00

会場：コーポ北加賀屋（大阪府大阪市住之江区北加賀屋５丁目４−１２）

出演：三ヶ尻敬悟、松見拓也、塚原悠也、やんツー

クリエイション技術サポート：稲福孝信

参加費：無料　詳細：https://theatreforall.net/join/translation23-jactynogg-zontaanaco/

【参加型演奏会】「PLAY ?ーあそぶ?おとをだす?」 蓮沼執太 × 梅原徹 × 宮坂遼太郎
アクセシビリティ：手話通訳、ノンバーバル、音声ガイド　★新作

からだやこころを動かすこと (PLAY)、それは音を出してみるこ と(PLAY)かもしれない?

様々な音楽活動を展開している蓮沼執太、梅原徹、宮坂遼太郎の3人が、誰もが参加することの出来る演奏会を開催する。この演奏会は、日々の私たちの生活にあふれる「音」を使って、一緒にPLAYしてみる会。自分のからだを使って「音」を出してみたり、ときにはだれかの「音」を聴いてみたり、もしかしたら触れる「音」だってあるのかも？大人も子どもも、べつに楽器が演奏できなくても大丈夫。聞こえない人も、見えない人も、車椅子を使う人も、この演奏会を通して、じぶんのこと、みんなのこと、からだのこと、こころのことを考えるキッカケになるといいな。

日時：5月27日(土) 14:30〜15:30（予定）

会場：渋谷パルコ10F　「ComMunE」および屋外　※エレベーターあり

参加費：500円（Peatixで販売予定）＊障害者お一人につき介助者１名無料

対象：どなたでも（耳の聞こえない人、目の見えない人、障害のある人もぜひご参加ください）

【LAB】ワークショップの実施　※取材希望の方は、報道関係者の問合せまでご連絡下さい。

演奏会に向けて子どもや障害当事者の皆さんと実験を行います（非公開）。

日時：4月29日(土)（予定）　会場：渋谷区（予定）

出演：梅原徹、宮坂遼太郎ほか

【アプリ配信&イベント】「文明単位のラブソング」 AR 三兄弟
アクセシビリティ：いつでもどこでも（アプリ）・手話通訳（動画配信）　★新作

小林幸子と鎮座DOPENESSが、日本の歴史、時代単位で聞こえてくる音を、現代から過去へむかって吟じるパレード。

あらゆる表現は時間の制約に対する挑戦である。レコードが発明されて「アルバム」という単位が生まれ、ラジオが生まれると新たな単位が生まれ、現代はSNSやTikTokの隆盛期にあって、さらなる加速度的なタイム感や初動時間をベースにしたヒットが生まれている。そんな現代において、立体的な音響を記録・再生するパレードをレコードという単位から立ち上げる。最新のAR技術を活用し、本邦初公開の新曲『文明単位のラブソング』が立体的に発表する。

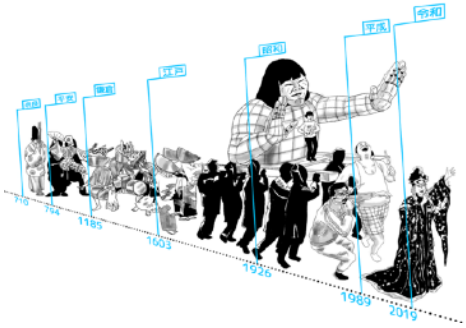
※手話つき動画をTHEATRE for ALL にて公開予定。

日時：5月27日(土)

会場：①アプリ配信：「社会実験」

https://apps.apple.com/jp/app/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E5%AE%9F%E9%A8%93/id1600849033

②お披露目イベント：渋谷パルコ（変更の可能性あり）



参加費：なし

総合演出：川田十夢　開発：AR三兄弟

作品（アプリ）出演：小林幸子（歌手）、鎮座DOPENESS（ラッパー）、石川浩司（シンガーソングライター）、ヨネダ2000（芸人）、いがみの権太＋人形遣い（人形浄瑠璃 文楽）、おわら風の盆（伝統）、チャンココ（念仏踊り）、音無史哉（笙）　※イベント出演者は後日発表

歌：小林幸子・鎮座DOPENESS　作詞：川田十夢　作曲：蓮沼執太

【配信】「超衆芸術スタンドプレー」オル太
アクセシビリティ：バリアフリー字幕、手話、英語字幕

2020年の東京オリンピックを目前に変わりゆく東京。宝くじ売り場、競艇場、駅の地下広場、高架下、工事現場を目撃する。路上に現れる不気味な笑い。新国立競技場の構造モデルから設計したスタジアムを再現した舞台で、あぶり出される都市の無意識が演じられる。オル太が2017年から展開しているプロジェクト『超衆芸術スタンドプレー』は、日常の中で出会う笑いを引き起こす現象を調査し、都市生活の中で生まれる無意識の身体の動きや人為的に仮設された街頭のオブジェがもたらす無作為の状況について明らかにしていく。都市に遍在する「勝敗と熱狂」の場における光景や言葉の記録、スケッチ、会話の断片を収集して再び演じることで同時代的な身体性を再構成する。ロームシアター京都×京都芸術センターによるU35創造支援プログラム"KIPPU"に選出、ロームシアター京都ノースホールで上演された。

配信開始：3月 28日(火)（予定）
※日本語版（バリアフリー字幕・手話）はすでに公開されており、英語字幕を新たに開始します。
プラットフォーム：THEATRE for ALL
費用：〈レンタル〉1,800円（税込） 視聴期間： 240時間 / 10日間
〈定額制・月会員 〉1,800円（税込） / 月〈定額制・年会員〉 30,000円（税込） / 年 ※特典あり

【配信】「瀕死の白鳥」「瀕死の白鳥その死の真相」Dance Base Yokohama（演出：岡田利規、出演：酒井はな、四家卯大）
アクセシビリティ：バリアフリー字幕、音声ガイド、英語字幕

Dance Base Yokohamaで創作し、2021年に愛知県芸術劇場で初演を迎えた「ダンスの系譜学」より、酒井はなによる『瀕死の白鳥』オリジナル版、そして白鳥が自身の死因を踊りながら語る岡田利規演出、酒井はなと四家卯大のチェロによる『瀕死の白鳥 その死の真相』の2つの公演記録映像。世界中のバレエダンサーに踊り継がれてきたフォーキン原作『瀕死の白鳥』と、酒井はなが演劇作家の岡田利規と取り組んだ新解釈バージョン『瀕死の白鳥 その死の真相』。白鳥の死因に迫ることでバレエの様式を解体し、現代のパフォーミングアーツの新たな局面を切り開く。

配信開始：3月 28日(火)（予定）
※日本語版（バリアフリー字幕、音声ガイド）はすでに公開されており、英語字幕を新たに開始します。
プラットフォーム：THEATRE for ALL
費用：〈レンタル〉 1,000円（税込） 視聴期間： 240時間 / 10日間
〈定額制・月会員〉 1,800円（税込） / 月〈定額制・年会員〉 30,000円（税込） / 年 ※特典あり

【ドキュメンタリー映像】河合宏樹（映画監督）

「Translation for All」におけるそれぞれのクリエーションの現場にて、個々のアーティストが障害に向き合うプロセスを追う、ドキュメンタリー映像プロジェクト。監督の河合宏樹は、これまでにも古川日出男、飴屋法水、七尾旅人など、独自の表現を追求するアーティスト達の姿を追いかけてきた。また、"ろう"の写真家、齋藤陽道の子育てを通じコミュニケーションのあり方にフォーカスしたドキュメンタリー映画『うたのはじまり』では、「絵字幕」という手法で聴覚以外の手法で音を届ける試みが話題を呼んだ。本プロジェクトでは「障害当事者とアーティストの対話を追いかけ、アーティストの試行錯誤や、障害当事者の方々の言葉をありのままにま映し出したい。テクノロジーやアートが障害にどういう影響をもたらすのか、果たして課題の解決になり得るのか、という視点を持って問いかけていきたい。」と意気込みを語る。

河合宏樹（映像監督）『ほんとうのうた』、七尾旅人『兵士 A』、飴屋法水と山下澄人『コルバトントリ、』『うたのはじまり』『対話する衣服-6組の"当事者"との葛藤-』、ASIAN KUNG-FU GENERATION『Live Film"Y...Yes Be Alright』『コロナ時代の銀河』が宮沢賢治奨励賞を受賞。2023年初夏、古川日出男×坂田明×向井秀徳による「平家物語 諸行無常セッション」を劇場公開予定。七尾旅人、クラムボン、蓮沼執太、折坂悠太、青葉市子、yakushima treasure（水曜日のカムパネラ＋オオルタイチ） 他、表現者のライブ映像を多数手がける。

【全体統括】金森香（プロデューサー）よりコメント　ーアクセシビリティへの挑戦ー

アクセシビリティ(Accessibility) とは、多様な利用者を前提に「サービスを円滑に利用できること」という意味に使われる「近づやすさ」「利用のしやすさ」という意味を持つ英単語です。THEATRE for ALL ではサービス開始当時から、そもそも情報保障が行き届いていないという社会全体の課題を前に、個々の利用者に対していかに作品視聴の回路を切り開いていくか、必要とする利用者に情報を届けるか、事業運営を通して向き合い続けてきました。その中で、我々独自の取り組みとして、アーティストとの協働による、その創造的なアプローチにも挑戦してきました。この実験はまだ試行錯誤の途上です。今回のフェスティバルでぜひ様々な立場の方にご参加いただき、新たな議論が重ねられることを願っております。ご来場をお待ちしております。

金森香｜2001年ファッションブランド「シアタープロダクツ」を設立し、2017年まで取締役。2010年NPO法人DRIFTERS INTERNATIONALを設立し、芸術祭・ファッションショーなどをプロデュースする。現在株式会社precogの執行役員。オンライン劇場「THEATRE for ALL」「まるっとみんなで映画祭」、True Colors FASHION「対話する衣服」（ここのがっこう・河合宏樹）・落合陽一総合演出「多様性を未来に放つ ダイバーシティファッションショー」、AR三兄弟「バーチャル身体の祭典」等をプロデュースする

プロフィール

contact Gonzo（パフォーマンス集団）

2006年に塚原悠也と垣尾優により結成されたパフォーマンス集団。「contact Gonzo」とは、グループの名称であると同時に、身体を「接触」させる独自の方法論の名称でもある。街中や公演で即興的なパフォーマンスを繰り広げつつ、映像や写真作品を制作。結成当初からパフォーマンスの記録映像をYouTubeにアップするなど、メディアを活用した活動を展開。13年にはニューヨーク近代美術館（MoMA）にてパフォーマンスを発表。現メンバーはNAZE、松見拓也、三ヶ尻敬悟、塚原悠也の4人。

やんツー（美術家）

1984年生まれ。2009年多摩美術大学大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。デジタルメディアを基盤に、行為の主体を自律型装置や外的要因に委ねることで人間の身体性を焙り出し、表現の主体性の問う作品を多く制作する。文化庁メディア芸術祭アート部門において第15回では「SENSELESS DRAWINGBOT」が新人賞、第21回には「Avatars」で優秀賞を受賞（共に菅野創との共同制作）。2013年、新進芸術家海外研修制度に採択され、バルセロナとベルリンに滞在。http://yang02.com/"

蓮沼執太（音楽家）

1983年、東京都生まれ。蓮沼執太フィルを組織して国内外でのコンサート公演をはじめ、映画、ドラマ、演劇、ダンス、CM楽曲、音楽プロデュースなど、多数の音楽を制作。また「作曲」という手法を応用した物質的な表現を用いて、展覧会やプロジェクトを行う。2018年個展『Compositions』（ニューヨーク・Pioneer Works）、『　～　ing』（東京・資生堂ギャラリー）を開催。2013年アジアン・カルチュラル・カウンシル（ACC）のグランティとして渡米。第69回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

梅原徹（音楽家・美術家）

1996年神奈川県生まれ。都市・環境のリサーチやフィールドワークを通した音響作品の制作を行っている。映像やダンス作品の劇伴制作、海外レーベルからのアルバムリリースやミックスの提供など活動分野は多岐にわたる。主な活動として「BankART AIR 2015」(BankART StudioNYK, 横浜, 2015)や「KAWAKYU ART EXHIBITION 2022」(ホテル川久, 南紀白浜, 2022)への参加など、近年はレジデンスを通した制作を中心に活動を展開している。

宮坂遼太郎（パーカション奏者）

1995年生まれ。長野県諏訪市出身、東京都東部在住。主に打楽器を用いて演奏を行う。岩出拓十郎との宅録ユニット”アナウンサーズ”や田上碧との音声パフォーマンスユニット"二十二世紀ヶ原"、高橋佑成・細井徳太郎とのノイズバンド「秘密基地」のほか、大石晴子、大林亮三(SANABAGUN)、折坂悠太、七尾旅人、蓮沼執太、本日休演、増田義基などと協働。

川田十夢（AR三兄弟）

1976年熊本県生まれ。10年間のメーカー勤務で特許開発に従事したあと、やまだかつてない開発ユニットAR三兄弟の長男として活動。新著『拡張現実的』（2020）、 旧著『AR三兄弟の企画書』（2010）。WIRED巻末連載、J-WAVE 『INNOVATION WORLD』、BSフジ『AR三兄弟の素晴らしきこの世界』、テクノコント。BTC（ブレインテックコンソーシアム）理事。公私ともに長男。通りすがりの天才。その世界のスター。ニュー文化人。

小林幸子（歌手）

1953年12月5日生まれ。新潟県出身。1964年10歳で「ウソツキ鴎」でデビュー。79年「おもいで酒」が200万枚突破の大ヒットとなり、日本レコード大賞最優秀歌唱賞をはじめとする数々の音楽賞に輝く。同年NHK「紅白歌合戦」に初出場し、以来34回出場。近年ではニコニコ動画への投稿やボーカロイドソフトの発売などで「ラスボス」と称され、若い世代やネットユーザーからの人気も博す。

鎮座DOPENESS（ラッパー）

1981年東京生まれ10代の頃にHIPHOPに魅せられる。2000年代MCバトルシーンから台頭し認知が広がる。昨今の活動としてはG.RINAとZEN-LA-ROCKとのFNCYやU-zhaan×環ROY×鎮座DOPENESSとしてアルバムをリリースしている。その他様々なアーティストとコラボレーションを展開。

ヨネダ2000（お笑い芸人）

吉本興業所属、東京NSC23期。神保町よしもと漫才劇場を中心に舞台出演している。2022年 第43回ABCお笑いグランプリ – 決勝進出、キングオブコント – 準決勝進出、女芸人No.1決定戦THEW – 準優勝、M-1グランプリ – 決勝進出。YouTube「ヨネダ2000チャンネル」配信中 (https://www.youtube.com/@user-gv3zm7hu7m)誠：1999年生まれ、東京都出身。　愛：1996年生まれ、神奈川県出身

※ほか出演者プロフィール： https://theatreforall.net/virtual_nippon_bodies/profile/

オル太（アーティスト集団）

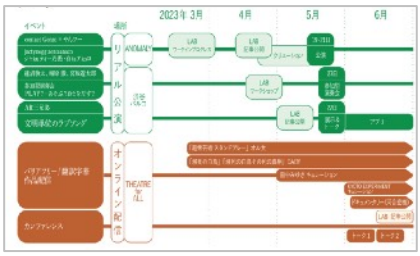
2009年に結成した6名のアーティスト集団。メンバーは、井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi。第14回岡本太郎賞受賞。創造行為、ひいては人間の根源的な欲求や感覚について、自らの身体をパフォーマンスという形で投じ、問いかけている。 近年の活動に『ニッポン・イデオロギー（仮）』（YPAMディレクション、KAAT神奈川芸術劇場、2022年）『耕す家：不確かな生成』（アーカスプロジェクト、2022年）ほか。

Dance Base Yokohama（ダンスハウス）

プロフェッショナルなダンス環境の整備とクリエイター育成に特化した事業を企画・運営するダンスハウス。複合芸術であるダンスの発展のため、振付家やダンサーといったアーティストのみならず、音楽家、美術作家、映像作家、照明デザイナー、音響デザイナー、またプロデューサーやプロダクションスタッフ、批評家、研究者、そして観客の皆様の交流拠点になることをめざしている。

フェスティバル概要（第一弾アーティストのみ、第二弾は4月中旬に発表予定）

タイトル：TRANSLATION for ALL トランスレーション フォー オール
内容：“身体表現の翻訳”をかんがえ、アクセシビリティを「ALL＝あらゆる人」に向けてひらく実験的フェスティバル
【公演】contact Gonzo × やんツー「jactynogg zontaanaco ジャkuティー乃愚・存taアkoコ」
日時：5月19日（金）-21日（日）　会場：ANOMALY（東京都品川区東品川 1-33-10）
【参加型演奏会】蓮沼執太 × 梅原徹× 宮坂遼太郎「PLAY ?ーあそぶ?おとをだす?」
5月27日(土) 14:30〜15:30　会場：渋谷パルコ 10F　「ComMunE」および屋外
【アプリ配信・イベント】AR三兄弟「文明単位のラブソング」
日時：5月27日(土)　会場：渋谷パルコ（変更可能性有、詳細後日発表）
【配信】オル太「超衆芸術スタンドプレー」
日時：3月24日(金)〜　配信：THEATRE for ALL
【配信】酒井はな、岡田利規、四家卯大、Dance Base Yokohama「瀕死の白鳥」、「瀕死の白鳥その死の真相」
日時：3月31日(金)〜　配信：THEATRE for ALL
主催：株式会社precog　助成： 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京【芸術文化魅力創出助成】
詳細： https://theatreforall.net/translation-for-all/



イベントスケジュール

THEATRE for ALL で配信中！「作家オリジナルのバリアフリー」作品も、合わせてお楽しみください

作家オリジナルのバリアフリー

標準的な「音声ガイド」「バリアフリー字幕」では、それぞれ視覚障害や聴覚障害のある方に対し、情報格差なく映像の内容を伝えることを目的として制作されますが、**「作家オリジナルのバリアフリー」では、アーティストが独自のアプローチで作品性に基づいて創作**します。THEATRE for ALL ではこれまで多くの取り組みを行ってきました。ぜひあわせてご鑑賞ください。

・「I/O」（毛利悠子）https://theatreforall.net/movie/io/
視覚情報をそのまま言葉にするのではなく、詩人の大崎清夏さんが作品を見て感じた情景を詩にし、それを朗読した。

・ルール？（田中みゆき　野村律子　菅俊一）　https://theatreforall.net/movie/rule/
映像の全編に渡り、バリアフリーをつけるのではなく、あえて謎が残る場面を作ることで固定概念を変化させることを目指した。

・Dance New Air 2020->21『ｎｏｗｈｅｒｅ』（湯浅永麻）https://theatreforall.net/movie/nowhere/
視覚情報を言葉にしていくのではなく、作者自身の視点で場面や心情などを説明している。

・「エレクトロニコス・ファンタスティコス！」〜本祭I：家電雷鳴篇〜（和田永）
https://theatreforall.net/movie/?movie_accesibility%5B%5D=artist
作家自身がナレーションを読み上げ、作品自体のガイドをしている。

・没入型映像　イマージュ（異言語Lab.）https://theatreforall.net/movie/?movie_accesibility%5B%5D=artist
アクセビリティの種類ごとに変わる主体の知覚をもとに作品への見え方が変わっていく、実験的な手法を試みた。

企画・運営・配信

企画・配信：THEATRE for ALL
国内外でのイベント企画・運営を行う制作会社 株式会社precogが、日本で初めて演劇・ダンス・映画・メディア芸術を対象に、日本語字幕、音声ガイド、手話通訳、多言語対応などを施したオンライン型劇場“THEATRE for ALL”(シアターフォーオール)を2021年2月にオープンしました。新型コロナウイルスで外出困難となった方、障害や疾患がある方、子ども、母語が日本語以外の方、また、芸術に対して「わからなさ」がバリアとなり馴染んでこられなかった方などに対して、開かれた劇場 を目指しています。https://theatreforall.net/

運営：株式会社precog
私たち「precog（プリコグ）」は、アートプロジェクトの企画・運営を行う制作会社です。活動テーマは、“横断と翻訳”。近年は“アクセシビリティ”（アクセスのしやすさ）と“インクルージョン”（包摂）にも力を入れ、プロジェクトの同時代性や新たな事業展開を追求し続けています。アーティストやクリエーター、そしてさまざまな分野の専門家と協働し、芸術体験と観客を鑑賞で繋ぐだけでなく、国際交流・福祉・地域活性・教育普及など多角的なアプローチによって「新しい価値」を生み出し、“表現”の未来をつくります。
＊名前の由来 pre（前）とcognition（認識）からなる「予知」という語を人称形らしく変型させた造語で、precog《予知能力者》という意味を持つ。https://precog-jp.net

★画像一式ダウンロード★
https://drive.google.com/drive/folders/1GTovfwTq5BmzzJnl9vMGwKpfZ54jELhX?usp=share_link

【一般の問合せ】「THEATRE for ALL」運営事務局（株式会社precog内）
Mail：tfa@precog-jp.net　Tel：03-6825-1223（受付時間 平日10:00〜17:00）
【報道関係者の問合せ】 広報担当 村上晴香｜Tel：090-5074-2320｜harukamurakami7@gmaiil.com